

空から見ると、近代的かつ斬新なデザインのかっこいい建物である。競技場にも見えるし、イベント会場にも見える。まわりには、ほとんど建物がない。この建物の名前は「フタバスーパーゼロミル」である。福島県双葉町にある。今年の4月にオープンした。

この建物は工場である。浅野燃糸株式会社の双葉事業所になる。岐阜県に本社を置く糸やタオル製品をつくる会社である。ホームページには、こうある。

怒涛のように押し寄せてきた津波によって何もかもなくなった双葉町の地に、新たな工業団地が作られ、町民の皆さんの復帰が始まりました。私たちは双葉町の復興から次への発展を担う一翼としてフタバスーパーゼロミルを稼働させ、双葉町を代表する糸やタオル製品を日本だけでなく世界に発信していきます。

この工場は、双葉町の新たな観光スポットとしても期待されている。中には、ショップやカフェもある。なぜ、岐阜にある会社が、双葉町に新たな工場を立ち上げたのか。ホームページに浅野社長のあいさつがある。

そんな時双葉町への工場進出のお話を頂きました。昨年7月末初めて双葉町を訪れました。8年間ずっと打ちひしがれている現地の惨状に息を飲みました。8年間7000人の幸せな生活を送っていた町の住民はいまだ0人です。しかし、その町を案内してくれた伊澤町長のファイティングポーズは、実にかっこよかった。そして双葉町・福島県・機構・経産省のどなたを見てもファイティングポーズをしっかりとって未来を見ておられ、実に謙虚でした。

「こんな人たちから学びたい。こんな人たちと仕事をしたい」と親子の意見がピタッと合致しました。そして、初めて息子宏介が自らファイティングポーズをとりました。

浅野社長は、人に惚れ込んだのである。そうテレビで語っていた。この工場が双葉町にできることは、以前から知っていた。完成した工場を見て驚いた。空から見ると、「SUPER ZERO」の文字が見える。双葉町のシンボルとなっている。名前がいい。「スーパーゼロ」双葉町の未来を、浅野燃糸の将来を、福島県の復興を象徴している。